

暁女子部 梶山芙紗子さん 審判員としての心がけを語る

暁女子部の梶山芙紗子さんが、Jリーグや国際大会で審判員として活躍していることはご存知だと思います。JFA 審判委員会女子部会でも国内トップ女性審判員の強化を目指しています。昨シーズン、J2 で初めて女性審判員としてデビューした梶山さんがインタビューを受けた記事が JFA ニュース(日本蹴球協会機関紙)の 2 月号に掲載されました。以下に紹介します。

暁 FC 事務局

梶山芙紗子 審判員



審判を始めたきっかけは、指導者としてもサッカーに関わるようになり、チームの帯同審判員として笛を吹かなければならなかったからです。「どこを走ればいい?」「どこに立てばいい?」というレベルでしたから、競技規則などを勉強して4級の認定講習会を受け勉強することにしました。

審判をする上では、試合の流れを大切にしています。「選手が何を考えているのか?」「どうしたいのか?」ということを早く感じ対応することで、スムーズなゲームコントロールにつながると考えています。また、サッカーにおける常識を持ち、見ている人にも分かりやすく、スピーディーなゲームになればと思います。

昨シーズンはJ2・FC岐阜対カタール富山戦で第4の審判員を務めました。

この試合では、主審や副審が普段通りでいられるように心掛けました。

前半20分ごろまでは、落ち着いて選手プレーや主審の動きなどを見る余裕はありませんでしたが、選手の交代が全て終わる頃には選手とコミュニケーションを取ることができました。試合自体を察しむことができました。Jリーグのフィールドに立てたことは、素直にうれしかったです。

です。

審判員としてやるべきことは女子も男子も変わりませんが、ロングボールが蹴られるときの気付きと動き出しは重要なポイントです。難しく感じた点は、女子の試合ではあまりないファウルが頻発すること。大きな違いはパワーとスピードであり、ファウルの質が少し違うように感じています。

昨年中国で行われた「第26回ユニバーシアード競技大会」では、初めての国際大会でしたが、緊張することなく楽しんで務めることができました。4試合で主審、2試合で第4の審判員を担当しましたが、一つ間違えたら試合が成立しなくなるのではないかと、ということをどの試合でも感じました。アフリカの選手などは身体能力が高い反面、技術が伴っていないため、ケガにつながるファウルを起しやすいため印象を受けました。

なでしこジャパンの活躍で女子サッカーが注目されています。今まで通り、選手のパフォーマンスやチームの力が最大限に発揮できるようにゲームコントロールに努めることに加え、試合を見ている方々がサッカーを楽しめるよう、分かりやすい試合運営が求められるようになってきます。私自身、「この審判員なら安心して任せることができる」と思ってもらえるよう努力していきたい。一年を通して安定したコントロールができるよう、目の前にある一つ一つの試合を大切に務めたいと思います。夢は、FIFA女子ワールドカップやオリンピックの決勝戦で笛を吹くことです。とても大きな夢ですが、ほんの少しでも可能性があればチャレンジし続けたいと思います。